

エコライフからミライフへ

未来生活 now



環境と経済成長の両立を目指す
グリーンエコノミー



生命の持続可能性を第一目的とする
ライフエコノミー



環境・人権・社会性を考慮しない
グリードエコノミー

小利大安

モノ

イノチ

カネ

情報

未来智途

志金循環



ミライフチェック

選んでいますか？

「持続可能な社会」のための暮らし方

私たちの暮らしは、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）の生産と消費によって成り立っています。

この「ミライフチェック」では、日々の暮らしの中であなたがモノ・カネ・情報について、「未来の持続可能な社会では当たり前」な選択をできているかを、チェックすることができます。

みんなが「未来を変える」ライフスタイルを今から始めることが、その未来をもっと早く実現することにつながります。

従来型のエコライフから、未来型のミライフへ。
生命を愛する暮らしのあたらしいカタチを
一緒に考えながらはじめてください。



ミライフチェックのやり方

- 1 情報・カネ・モノそれぞれ10 ずつの設問に対して「Yes」と思うものにチェックをし、上段・下段それぞれ得点を出します。（1 問1 点）
- 2 一番下の欄に、上段の合計と下段の合計点を記入し、最後に総得点を計算します。（30 点満点）
- 3 ミライフナビで、どれだけミライフに近づいているか確認してみましょう。

情報・メディア（10 問）

1 ☐

原発事故が
起きた1か月、
報道には振り回
されなかったと
思う

3 ☐

12 歳くらいの
子どもに「良い
報道とは」を自
分なりに教え
てあげられる

5 ☐

最近の民放で
優れていると
思った報道番
組を1 つ以上
あげられる

7 ☐

応援したい
メディアには
ちゃんとおカネ
を払いたい

9 ☐

テレビ企業に
は広告収入に
ついて情報公
開を求めたい

2 ☐

「半農半X」
なライフスタ
イルに関する
情報を普段か
ら受けている

4 ☐

メディアは
ダメな政治家も
仕事してる政
治家もバラン
ス良く報じて
ほしい

6 ☐

ソーシャルメ
ディアやプロ
グでメディア
についてモノ
申したことが
ある

8 ☐

優れたNPO
の無料メルマガ
なら知りたいし、
登録したい

10 ☐

もっとNPOの
有識者をテレビ
の報道番組に
登場させたい

点

+

点

||

カネ・金融 (10 問)

1

これからは
「持続可能な
経済」
を考えるべき
だと思う

3

自分の預貯金
が原発建設に
使われたら
イヤ

5

12 歳くらい
の子どもに銀行
の仕組みをそ
れなりに説明
できる

7

人口も減り経
済成長がマイ
ナスになって
も幸せになれ
る自信がある

9

「グッズ減税・
バズ課税」に
ついて聞いた
事がある

点

+

2

世界中で多く
の子どもが助
かるはずの
理由で死んでい
る事が悲しい

4

自分のおカネ
が生命を愛す
る取り組みに
使われたら
ウレシイ

6

12 歳くらい
の子どもに生協
などの協同組
合の仕組みを
一応は説明で
きる

8

出資で未来を
変えられる
「NPO バンク」
について知りたい

10

「派遣切り」
「名ばかり店長」
「シャッター街」
みんな何とか
したい

点

||

モノ・資源 (10 問)

1

年に一度は田
んぼや畑で
大地と農作物
に直に触れて
いる

3

原子力発電の
問題を考える
イベントに
行った事がある

5

ケータイ買い
替えの際は
できるだけリ
サイクルして
いる

7

人口の2 割が
富の8 割を所
有する「富のワ
イングラス」を
知っている

9

顔の見える安
心な農産物を
身近に買える
ようにしてほ
しい

点

+

2

「ヴァーチャ
ルウォーター」
の意味を知っ
ている

4

100円ショップ
だらけになった
ら怖いと思う

6

農村の暮らし
を楽しんでい
る人を知って
いる (または
自分が楽しん
でいる)

8

放射能被害に
悩む福島につ
いて、現地の
人を応援して
いる

10

地元の学校給
食に地場もの
の有機農産物
が使われてい
るか気にして
いる

点

||

グリーン(上段)

点 + ライフ

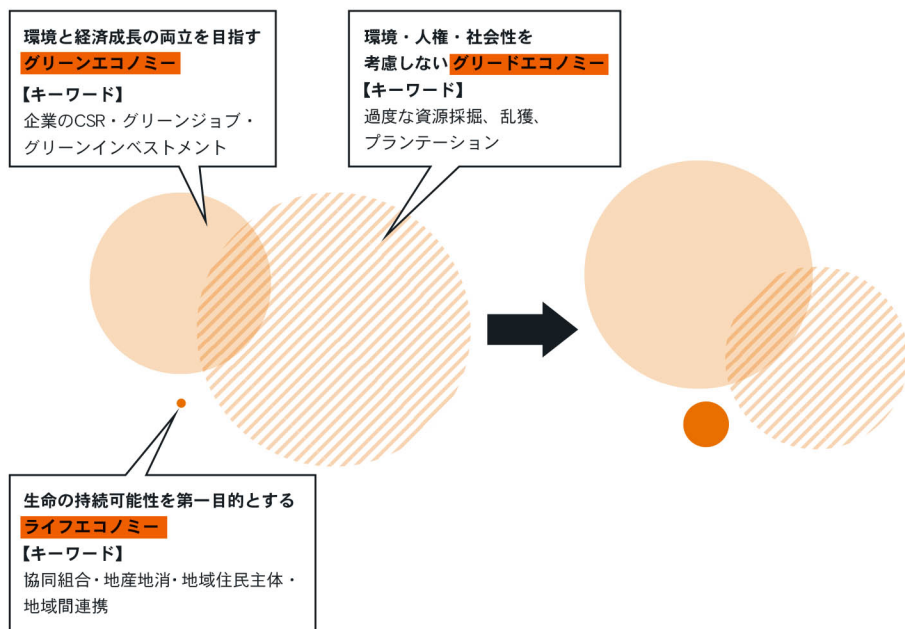
点 = 合計

点

ミライフナビ

目指そう！ライフエコノミーの主流化～ミライフが考える3つのエコノミー

3つのエコノミー



「ミライフ」では、3つのエコノミーのうち、今の経済規模では1%にも満たない、ライフエコノミーの主流化を目指しています。

現在急成長しているグリーンエコノミーがライフエコノミーを推進・支援し、グリッドエコノミーを縮小へ向かわせることが、更なるJUMPとして求められています。そうして、グリッドエコノミーを減らし、ライフエコノミーを3%、5%、と増やしていくことで、社会の仕組みを変えていくことができるのです。

これからは、ライフエコノミーを主流化し、グリッドなエコノミーを規制する。それが、グリーンエコノミーである企業や政府の役割であると考えています。

ライフエコノミーを主流化するためには、消費者の生活を変えていくことが大切です。未来生活 now では、小利大安な社会をつくるために「モノ・カネ・情報」を選ぶ事を提案しています。

未来生活を始めよう！



モノ

小利大安ライフ

資源の消費者・生産者として

- 食料・エネルギー・医療福祉を、誰もが安心して得られる暮らし。
- ・有機農産物と自然エネルギーを選ぼう！



情報

未来智途ライフ

メディアの視聴・発信者として

- 目指す未来を見つけるために必要な情報を得られる・発信できる暮らし。
- ・市民メディアを応援しよう！
- ・NPO/NGOメルマガに登録しよう！
- ・マスメディアに良い報道を求めよう！
- (ニュースツイート)

カネ

志金循環ライフ

金融の預金者・出資者として

- よりよい社会のためにお金の行き先を自分の意思で決めることができる暮らし。
- ・NPOバンクに出資しよう！
- ・金融機関が何に投資しているか知ろう！

ミライフチェック・点数別アドバイス

上段の点数が高かった人…立派にグリーンエコノミストの要素あり！次は、ライフエコノミーを知るところから。

下段の点数が高かった人…ライフエコノミストの要素が高いあなたは、よりミライフの実践者といえるでしょう。

0～9点

0～9点
レベル1

未来へのヒントを探して、アースデーや農業体験に行ってみましょう。

【メディア（情報）を伸ばしたい人】

まずはNPO・NGOのメルマガ3～10ほどに登録を。良い・悪いと思った報道について、メディアに声を届ければ完ぺき。

10～15点
レベル2

ボランティアやトークカフェで自分に合ったテーマや団体を見つけましょう。

【金融（カネ）を伸ばしたい人】

ささやかな寄付でも、しっかり選んで続けましょう。おかねの活かし方について考えましょう。NPOバンクに出資すると、たくさんの気づき・出会いも。

16～18点
レベル3

友達も誘いつつ、未来を一步先取りして新しい取り組みにトライ！

19～22点
レベル4

ボランティア活動のリーダーとなって活動を創造していきましょう。

【資源（モノ）を伸ばしたい人】

まずは「知るための方法」を身につけましょう。NPOの会員になる、イベントに行く、など。普段使っているものがどのように作られているかを考えてみましょう。

23～25点
レベル5

情報の発信者や志金の出し手となって、金融・メディアを変えましょう。

26～29点
レベル6

今の生業を通して、または社会的起業やNPOを立ち上げて、ますます活発に活動していきましょう。

30点満点
レベル7

自他ともに認める「未来生活NOW!!」の体現者です。まちぐるみで未来生活を実践して、企業や政府に政策提言していきましょう。

未来智途ライフ



メディア、あるいは情報システムとは、社会の「未来」を選択する際の「地図」に例えられます。地図に書かれていないことには、選択することも、たどり着くこともできません。

今、社会全体の地図を書いているのは誰でしょうか？
未来のために必要な地図とは、どのようなもののでしょうか？

『未来智途（みらいちず）ライフ』とは、世の中の草の根にある『智慧』を、私たちが選ぶ未来へと続く『途（みち）』に活かそう、という意味を込めて造った言葉です。

【智】（ち）【音】チ

- 1 物事をよく理解する。
賢い。「智愚・智者」
- 2 物事を理解する能力。
「智慧（ちえ）・智能／
叡智（えいち）・奸智（かんち）
才智・明智

【途】（と）【音】ト（漢）

ズ（ツ）【訓】みち
道。道すじ。道のり。
「再び車に乗り一に上りぬ」
〈鵲外訳・即興詩人〉

「コトバンクより」

原発事故が起きた1か月 報道には振り回されなかった

東日本大震災の原発事故発生以降、多くの情報が覆い隠されようとする中で、市民メディアや独立系ジャーナリスト、脱原発に取り組む提言型NPOが本領を発揮して、事実を伝えたといえます。報道に振り回されないうために日頃からそうした報道による報道にアンテナを張っておいてはいかがでしょうか？

「半農半X」なライフスタイルの情報を受け取っている

多様な地域や伝統的食文化や、農業・化学肥料に頼らない有機農業の番組は、製作費も高く、広告主もつかず、番組制作側としてはコストに見合い

ません。日本の有機農業が1%にも満たないまま40年もたっているのは、そんなテレビの罪もあるのかもしれない。

塩見直紀さんが提唱する「**半農半X**」は、農的暮らしをしながら天職を楽しむ生き方をしよう、という意味ですが、農的暮らしを社会に根付かせるためにも、そういうメディアを応援しましょう。

12歳くらいの子供に「良い報道」を教えてあげられる

マスメディアに対して批判の声を上げている人の多くは、マスメディアを辞めたフリーランスのメディアの人だったりします。本来は、読者・視聴者が自分で調べ、自分で考えてこそ「自分にとっての良い報道」が見え

てくるのではないのでしょうか？ぜひ子どもたちと一緒に「読者・視聴者の立場」から考えてみませんか？

メディアはダメな政治家も仕事している政治家も報じてほしい

視聴者にとって益となるのは「どの政治家が仕事をしていないか」だけでなく、「政治家がすべき仕事は何か」を報じるメディアではないでしょうか？もちろん新聞やテレビはその役割を担っていないわけではありませんが、一方でたとえば遺伝子組換え問題や携帯電磁波問題など、全く扱わないテーマがあるのも確かです。政局報道に使う時間と労力の半分を、推進すべき政策の報道に使うメディアがあったら良いと思いませんか？



優れていると思った報道番組を1つ以上あげられる

「すぐれた民放の報道番組なんであるの？」と驚く人が沢山います。すべての番組を視ることは出来ませんが、たとえばフジテレビでは、毎週土曜日朝5時に「**新週刊フジテレビ批評**」という自社検証番組を1時間、生放送で放送していて、他局に比べ評価できます。公共放送であるNHKと違い、広告で成り立つ民放の報道番組であるからこそ、世間一般の人々が社会参加意識を持ち、報道の質についてしっかり声を上げる事が重要です。

メディアについてソーシャルメディアなどでモノ申したことがある

現代の言論空間は匿名・実名に関わらず批判や否定が多く、自由かつ建設的な議論がなかなか持てません。せっかくfacebookやTwitterがあるので、メディアに対して良い報道は良かった、悪い報道はどうすれば良くなるか、当たり前にもモノ申せる社会にしたいものです。報道制作者にとって、そうした声なくして、骨太な報道を続けるのは至難の業。Twitterによる視聴者アクション「**ニュースツイート**」では、日々テレビの報道を見ながら、視聴者が考える報道のあり方について、ハッシュタグ「**#tvcsr**（テレビ企業の社会責任）」をつけてツイートしています。ぜひ一度、あなたもつぶやいてみてください。

応援したいメディアにはちゃんとおカネを払いたい

無料のニュースには広告主がついていて、「広告収入を上げる」プレッシャーが働いています。取材・編集をして、読者・視聴者の元へと届けるための経費が、視聴者の寄付や購読料であるか、広告料であるかには大きな差があります。志あるジャーナリストやメディアには、まっとうな「ニュースの値段」を、志ある読者・視聴者が払う必要があります。

OurPlanet-TV・IWJ・ビデオニュースドットコムなど、

寄付・購読料で成り立つ報道型市民メディアは、「マスメディアが報じない事実を報道する」「市民が情報の発信者になる」といった使命を掲げています。

優れたNPOの無料メルマガなら知りたいし、登録したい

提言型NPOと市民メディア。この二つを使いこなす読者・視聴者が増える事が、その国のメディアの質を左右するといっても過言ではないでしょう。（環境・開発・人権の分野で国際的に有名な政策提言型NPO：アムネスティ、アジア太平洋資料センター（PARC）、オックスファム、「環境・持続社会」研究センター（JACES）、気候ネットワーク、グリーンピース、原子力資料情報室、A SEED JAPAN、FoE、WWF、等。）

テレビ企業には広告収入について情報公開を求めたい

「報道」は一つの商品。それがどのように取材され、加工され、どの誰によるいくらの広告費で制作されているのか、そうした情報は公開されているでしょうか？ 広告費の流れを把握するという事は、何が報道されにくいかを知ることにつながります。そうして初めて、社会的なテーマを扱う報道番組に広告を出そう、という「**CSRスポンサー**」という考え方も生まれてきます。社会的責任を果たし、視聴者・広告主の信頼を得るために、CSR報告書という形で広告費や報道実績について情報公開を求めたいものです。

もっとNPOの有識者を報道番組に登場させたい

原発事故を受け、環境エネルギー政策研究所（ISEP）の飯田哲也氏や、原子力資料情報室に協力している後藤政志氏のテレビ出演が飛躍的に増えました。複雑化、多様化、深刻化する環境問題について、提言型NPOとマスメディアが協働して調査報道の質を高める事は、視聴者にとっても、社会的課題に取り組む企業にとっても有益なのではないでしょうか。



志金循環ライフ



お金は預けたらそのまま、と思っていませんか。あなたが金融機関に預けたお金は、ただ口座に眠っているわけではありません。こんな未来であってほしい、そんな思いをお金に込めることができるのです。

志金循環ライフは、よりよい社会をつくるためにお金が循環するように、自分の預けたお金の行先を自分の意志で決め、それを金融機関に伝えていくことができる暮らしです。

世界ではUNEP（国連環境計画）が、持続可能な社会のために金融機関が最低限守るべき指針「国連環境計画・金融イニシアチブ（UNEP・FI）」を策定し、日本でも「持続可能な社会に向けた金融行動原則（21世紀金融行動原則）」に現在180以上の金融機関が署名しています。それでもまだ、有機農業や再生可能エネルギーなど「社会性はあるけれど事業性がない」と考えられている産業への投融資は十分に進んでいるとはいえません。金融機関も預金者も、未来を「奪う」のではなく「つくる」ための投融資を行いましょう。



これからは「持続可能な経済」を考えるべきだと思う

持続可能な経済のあり方として提案される「**グリーンエコノミー**」とは、一般には環境や社会への負の影響を減らし、正の影響を増やす経済のあり方を指す言葉であるといわれています。具体的には米国、中国、EUなどが掲げる環境経済政策、とくに雇用振興策を意味することが多いようです。先進国と新興国・途上国それぞれで立場が異なり、目的も「経済成長の持続可能性」なのか「生命全体の持続可能性」であるか、しっかり見極める必要があります。

世界中で多くの子供が助かるはずの理由で死んでいる事が悲しい

アフリカ(サハラ以南)では、1000人のうち174人の子供が5歳に

なる前に亡くなります。(先進国では1000人中7人)。その理由の一つに、多大な債務返済のために、教育や福祉、日用品や農業への予算を削減してしまうという構造があります。例えばアフリカでは1970年から2002年までに、利子を含め5400億ドルを借り、約5500億ドルを返済しています。

巨大な債務の背後には、先進国が途上国におカネを貸付け、様々な開発プロジェクトを行ってきたという経緯があります。

自分の預貯金が原発建設に使われたらイヤ

金融機関は原子力発電所を使用している電力会社に融資を行っているほか、大株主でもあります。グリーンピースが発行したレポート「原発 - 21世紀の不良資産（邦題）」によると、2000年から2011年にかけて、社債の

発効・融資・株式発行などにより少なくとも日本円で5.6兆円の資本を東京電力に提供しています。資本の大部分を占める社債の引受会社の中に、日本の大手メガバンクをはじめとする何十もの金融機関が名を連ねています。

自分のおカネが生命を愛する取り組みに使われたらウレシイ

農家で採れた野菜をいったん市場に集めてスーパーに運送する、つまり「流通」を介した場合、農家が得られるのは販売価格の60%ほどに減りますが、直接消費者に販売すれば、そのほとんどが収益となります。消費者はより新鮮な野菜を安く手に入れることができますし、生産者と直接話すことができるので安心です。今、地方にも都市にも、生産者と消費者をつなぐ場が増えてきています。ぜひ、

あなたの町に一番近いファーマーズマーケットを探してみたいかですか？

12歳くらいの子どもに銀行の仕組みをそれなりに説明できる

銀行とは「お金を必要とするところへ流す（融通する）仕組み」です。銀行は私たちの預けたお金を使って、企業や事業、政府などに投資・融資をしています。しかしそのお金は、環境や社会にとって望ましくない事業に使われてしまうこともあります。私たちが普段預けたりおろしたりするおカネの使われ方を知ることとはとても大切なことなのです。

12歳くらいの子どもに、生協などの協同組合の仕組みを、一応は説明できる

生協（生活協同組合）とは協同組合の一つ。組合員同士で同じサービスを受けようとすることを目的に作られた組織で、利潤の追求は目指しません。最近では、組合員以外のすべての人びともにも必要なサービスを提供する——「公益」「公助」の担い手となる必要がでてきていると考えられています。（おすすめ図書：西川潤『連帯経済—グローバル化への対案』明石書店、2007年）

人口も経済成長もマイナスになっても幸せな社会を作れると思う

農村では、地域の人びとの間で野菜や調味料を交換したり、田畑を共同で管理しています。

それらはGDPには反映されず、今の「豊かさ」の測り方では見えないものです。生活に必要な物資や福祉を、市場からではなく人と人の繋がりから得ることができれば、経済成長がなくても安心して暮らすことができます。

国民一人一人が金銭的な所得とは別の部分に喜びや安心を見つけることで、幸せな暮らしを送ることができるのです。

出資で未来を変えられる「NPOバンク」について知りたい

NPOバンクとは、市民の出資を原資として社会的に必要な事業に融資をする金融機関です。その特徴は、地域に根ざしていることはもちろん、出資者と融資先とが交流できる場を提供するなど、地域の中でおカネの流れが目に見える仕組みを造っていることです。一口数万円からの出資で、安心して暮らせる社会をつくる人たちを応援しながら、一緒に地域づくりに参加をしてみませんか？

（全国NPOバンク連絡会：
<http://npobank.net/>）

「グッズ減税・バズ課税」について聞いたことがある

環境を守るため、ごみの削減や

節電をより多くの個人や企業が行動に移すには何が有効でしょう？それを解決するのが税金・補助金です。道路を造り続けるためのガソリン税、農薬や化学肥料を売るための農業補助金、海や森を壊して開発を進める税金・補助金のあり方に対して「良い物を減税し、悪い物に課税する（GOODS減税・BADS課税）」という考え方を一層進める必要があります。2012年、日本で「地球温暖化対策のための税」が施行され、欧州では金融取引税導入への積極的な議論が交わされたことなどは歓迎すべきでしょう。

「派遣切り」「名ばかり店長」「シャッター街」みんな何とかしたい

フランスの脱成長論者、セルジュ・ラトゥーシュは自著の中で、「経済成長がなければ社会や暮らしが成り立たない」という「常識」や「神話」から自由になることを提案しています。この考え方は、有機農業運動が1970年ころから目標とし、実践してきた社会像と一致します。埼玉県小川町で有機農業を続けてきた金子美登氏さんは「**小利大安**—小さな利益で大きな安心を得る—」という言葉で表現しました。生きていくために必要なもの、つまり食料・エネルギー・医療を、自然を損なうことなく自給できる地域がどのくらい地域に根付いているか、それがこれからの「豊かさを測る指標」の中心になるべきでしょう。



もっとも目指すべきは「小さな利益で大きな安心」

小利大安ライフ



豊かさとは何か、多くの書籍などで語られることの多いテーマですが、それを一人ひとりがはっきりとイメージし、実践できることがミライフへの第一歩です。

これまで私たちは、目の前にある大きな利益を求めて経済成長にまい進してきたといえます。

しかし、目の前の金銭的利益は少なくとも、生きていくために必要なもの、つまり食料、エネルギー、医療について、自然を損なうことなく自給できる地域がどれくらいあるか、それがこれからの「豊かさを測る指標」の中心になるべきでしょう。

埼玉県小川町で有機農業を続けてきた、全国有機農業推進協議会理事長の金子美登さんは、そのようはビジョンを「小利大安—小さな利益で大きな安心を得る—」と呼びました。

そうした価値転換の中、生産者と消費者の関係も見直すべき時が来ています。



年に一度は田んぼや畑で大地と農作物に直に触れている

自然に触れ、食べ物の生産の現場に触れることをせず、自然の大切さを知ることのない人を増やし続ける仕組みをこの200年、増やしてしまった！ということに気付くことが最初の一步。食べ物を捨てすぎる国の不健康な働きバチになっていませんか？今地域で新しく有機農業を進めているのは、そのような生活に疑問をもった人たちです。

「ヴァーチャルウォーター」の意味を知っている

忘れていませんか？「水はすべての命の源であり、生きていく

のなくてはならないもの」ということを。

今、水を大事にできない人が増えています。バーチャルウォーター（仮想水）とは、作物を栽培し加工し、食卓に届けるまでにかかる総水量のこと。例えば、ステーキ200グラムを食卓に届けるのに必要な水は約4000ℓ。また、2005年に海外から日本へ輸入された仮想水の量は、日本国内で年間に使用される水量とほぼ同じと言われます。

原子力発電の問題を考えるイベントに行った事がある

震災と原発事故により、放射能と向き合っていかなければならない時代になりました。『Not in

my backyard（うちの裏庭にはゴメンです）」と、それでもなお言い続けるよりも、放射能を管理する方法と安全なエネルギー供給の方法を考えることが大切です。そうしてあなたも、再生可能エネルギーを生み出す側へ気持ちよく踏み出しましょう。

100円ショップだらけになったら怖いと思う

価格や雇用において底辺での競争が起っています。日本も例外ではなく、中国産の100円均一商品に対抗するために、日本の工場でも採算を度外視した生産をせざるを得ない状況があります。しかしモノには真当な値段というものがあるはず。

さらに、値段は二倍でも価値は三倍、十倍、というものが地産地消な暮らしの中にはあるので

ケタイ買い替えの際は、できるだけリサイクルしている

映画「ブラッドダイヤモンド」をみて、「**紛争鉱物**」という問題にも目を向け、「強欲な経済」を知りましょう。不公正な経済を支えるのは消費者の無知と無言。携帯電話の材料である鉱物を採掘するために壊されているコミュニティや命について考え、消費者と企業のエシカルを進めましょう。A SEED JAPANではエシカルケタイを進めてゴリラの保護に役立てています。

農村の暮らしを楽しんでいる友達がいる

「**地域営農**」という言葉があります。農家は農産物を作っているのではなく、生命の力を引き出す土や水、山、生態系、生活空間を作っています。その仕事は、子どもからお年寄りまでを巻き込んだ、地域での共同作業によって成り立っています。その中でも有機農業は2006年に施行された「有機農業推進法」によって、全県および市町村の18%以上においても推進計画が立てられ着実に広がりをを見せています。有機農業は最大の未来創造。そうした暮らしを先取りしているあなたの友達は「すごい」のです。

人口の2割が富の8割を所有する「富のワイングラス」を知っている

アメリカの経済誌『フォーチュン』によると、2011年度世界売上高ランキングは1位のウォールマートを筆頭に、ロイヤルダッチシェル、エクソンモービル、BP、中国石油化工、中国石油天然氣集团公司、トヨタ自動車、日本郵政、シェブロンだそうです。富の集中がさらなる富を生み、貧しい人はさらに貧しくなる現実を知り、「地域の豊かさなくして成長なし」と悟りましょう。

有機農家や、大地を守る会など有機流通とつながりを持っている

環境にも優しく、地域も元気にするのに、生産面積において1%に満たない日本の有機農業。オーガニックライフはお金と知識のある環境意識の高い「エコセレブ」のものと揶揄されています。**ファーマーズマーケット**や「**地域が支える有機農業(CSA)**」に参加して、有機の糧をいただきながら変えていきませんか？

放射能被害に悩む福島について、現地の人を応援している

東北の頑張りを、支える責任が東京にはあります。今、放射能を正しく知り、最大の再生を目指すために一人でも多くの人が当事者として取り組むことが、何よりも未来につながっていくのではないのでしょうか。

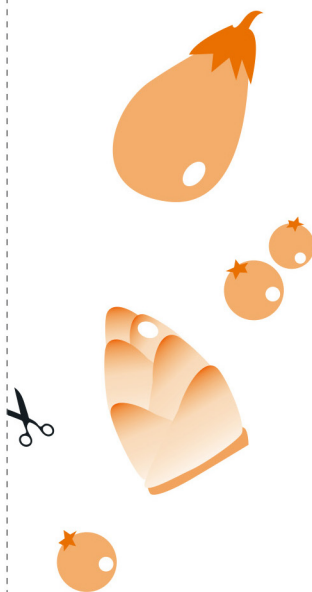
放射能を「避難するため」に測る人、「克服するため」に測る人、共に手を取り合しましょう。

「おすすめ図書：菅野正寿・長谷川浩編著、『放射能に克つ農の営み—ふくしまから希望の復興へ—』コモンズ、2012

地元の学校給食に有機農産物が使われているか気にしている

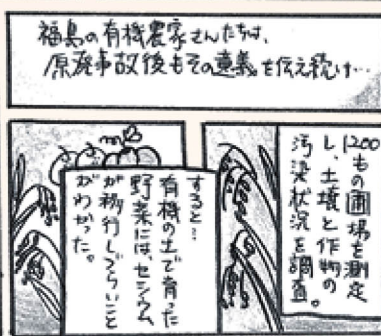
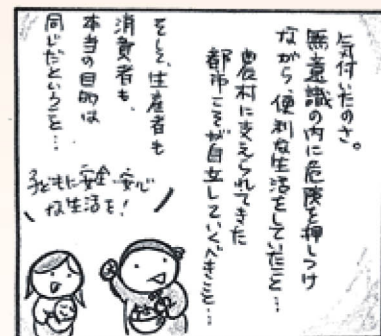
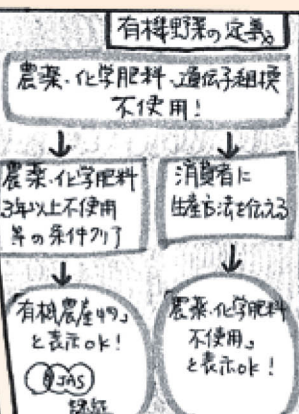
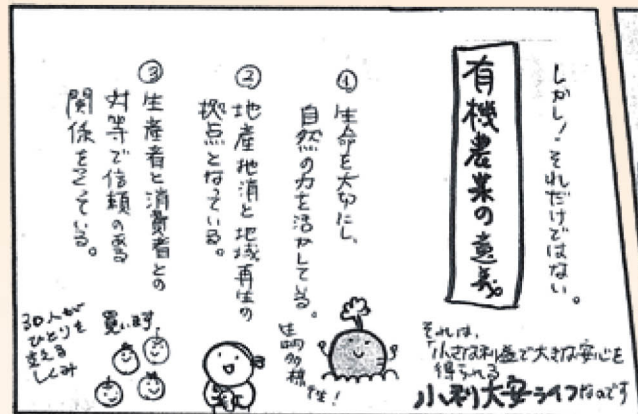
「命を大事に」とはどういうこと？それを教えてくれるのが、子どもの頃の食生活。その中でも給食を見れば、その地域の50年先の未来が見えます。

「子どもには一番良い食べ物」という気持ちを大事にできないで、どんな未来が待っているでしょう？食べ物、エネルギー、医療介護、この3つは、未来を図る指標なのです。学校給食は、その大事なひとつです。





未来生活 NOW!



国際青年環境 NGO A SEED JAPAN

A SEED JAPAN (Action for Solidarity, Equality, Environment and Development) 青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動) は、1991年10月に設立された日本の青年による国際環境NGO(非政府・非営利組織)です。国境を越えた環境問題とその中に含まれる社会的な不正に注目し、より持続可能で公正な社会を目指すために、未来の世を担う青年自らが行動を起こしています。

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23
TEL: 03-5366-7484 FAX: 03-3341-6030
URL: <http://www.aseed.org> / E-mail: info@aseed.org

編集責任者: 鈴木亮 (A SEED JAPAN未来生活nowプロジェクト理事)
編集スタッフ: 阿部秀俊、遠藤嘉則、片山新悟、小林邦彦、関口卓哉、西島香織
デザイン: 千坂美奈子 (A SEED JAPAN 編集部)

